

河川水辺におけるボランティアな活動のモチベーションに関する研究

Survey on Motivation by Voluntary Activities in waterfront

水循環・まちづくりグループ 研究員 阿部 充
 水循環・まちづくりグループ グループ長 柏木 才助
 公益社団法人 日本河川協会 佐藤 節夫
 公益社団法人 日本河川協会 淵 憲介

1. はじめに

本研究は、河川水辺における様々なボランティアな活動を対象に、それらの活動を継続的に実施していくにあたり必要となるモチベーションや種々の条件等についての知見を得ることを目的とし、活動団体への事前聞き取り・アンケート調査及びその結果の整理を行ったものである。

なお、本調査研究は公益社団法人日本河川協会との共同研究として実施した。

2. 調査研究の方法

調査研究は、事前聞き取り調査、アンケート項目の検討と調査の実施、アンケートの結果整理、の順序で行った。以下に詳述する。

2-1 事前聞き取り調査

事前に聞き取りを行うことで、想定される活動のモチベーションとなる事項について把握し、アンケート項目の検討の参考にした

対象団体としては、活動が全国的である、地域性があり総合的な活動を行っている、地域性があり活動内容が比較的絞られている、などの視点から選定し、「海をつくる会」「鶴見川流域ネットワーク」の二つの団体代表者に対して聞き取り調査を行った。調査結果をまとめると以下の通りである。

個人のリーダーシップが重要な要素である可能性があり、リーダーと一般会員を区分して調査する必要がある。

知名度の向上が活動に効果的である可能性がある。新規の活動内容は会員の活動意欲を増大させることがある。

行政の理解・支援が活動内容と連動することがある。

2-2 アンケート項目の検討

聞き取り調査の結果を元に、アンケート項目（質問項目・回答項目）の設定を行った（表-1）。

表-1 アンケート項目

大分類	中分類	質問項目	回答項目等	
1. 今までの組織や活動の状況	活動状況	最近5年間の活動状況	1. 満足した頃と比べて活動の状況は増えている 2. 満足した頃と比べて活動の状況はほぼ変わっていない 3. 満足した頃と比べて活動の状況は減少している	
	メンバーの状況	最近5年間のメンバー数の増減状況	1. 満足した頃と比べて増加している 2. 満足した頃と比べて減少している 3. 満足した頃と比べてほぼ変わっていない	
		満足時、特に積極的に活動していたメンバーの状況	1. 入れ替わりが激しかった 2. 半数程度は継続して活動している 3. ほとんどが継続して活動している	
	最近5年間の、特に積極的に活動しているメンバーの状況	最近5年間の、特に積極的に活動しているメンバーの状況	1. 入れ替わりが激しい 2. 半数程度は継続して活動している 3. ほとんどが継続して活動している	
		最近5年間の新規メンバーの加入状況	1. 新規加入はほとんど無い 2. 毎年、総人数的に同程度の新規加入がある 3. 毎年、総人数的に以上の新規加入がある	
	活動回数	満足時の年間の活動回数	1. 年1回～2回程度 2. 年3回～12回未満（毎月1回未満） 3. 年12回～25回未満（毎月1回～2回） 4. 年25回～52回未満（毎月2回以上～毎週1回未満） 5. 年52回以上（毎週1回以上）	
		最近5年間の年間の活動回数	1. 年1回～2回程度 2. 年3回～12回未満（毎月1回未満） 3. 年12回～25回未満（毎月1回～2回） 4. 年25回～52回未満（毎月2回以上～毎週1回未満） 5. 年52回以上（毎週1回以上）	
	知名度	最近5年間の、団体の知名度	1. 知名度は低い 2. 少しは知名度があるように思う 3. 知名度はふつう程度 4. 知名度は比較的高い 5. 知名度はかなり高い	
	2. リーダーとして心がけてこられたことなど	動機	満足時の活動を始めた動機	自由記入
		メンバーの関心の程度	満足時と比べて最近5年間の活動内容の状況	1. 活動内容は一貫して変わっていない 2. 当初の活動内容をとり止め、新しい分野に変わった 3. 新しい分野を取り込んで活動内容が拡大している 4. 活動内容に対するメンバーの関心の程度は低（な）ってきている 5. 活動内容に対するメンバーの関心の程度は今までと変わらない 6. 新しい分野に対するメンバーの関心の程度は低い 7. 新しい分野に対するメンバーの関心の程度はそれまでと変わらない 8. 新しい分野に対するメンバーの関心の程度はそれまでより高い
前項で1を選択した方に該当する項目			1. 活動内容に対するメンバーの関心の程度は低（な）ってきている 2. 活動内容に対するメンバーの関心の程度は今までと変わらない 3. 活動内容に対するメンバーの関心の程度はそれまでと変わらない 4. 活動内容に対するメンバーの関心の程度はそれまでより高い	
外部からの活動依頼		外部からの活動依頼の有無	1. 外部からの活動依頼は無い 2. 外部からの活動依頼はあった	
		前項で1を選択した方に該当する項目	1. 外部からの活動依頼は無い 2. 外部からの活動依頼はあった 3. 外部からの活動依頼は活動内容の変化や拡大に影響した 4. 外部からの活動依頼は活動内容の変化や拡大には影響しなかった	
行政、学術的な専門家の連携		最近5年間の行政との連携	1. あまり連携を取っていない 2. 少しは連携している 3. 連携の程度はふつう 4. かなり連携を取っている 5. 連携の程度は深い	
		最近5年間の学術的な専門家の連携	1. あまり連携を取っていない 2. 少しは連携している 3. 連携の程度はふつう 4. かなり連携を取っている 5. 連携の程度は深い	
受賞経験		受賞経験の有無	1. 受賞経験は無い 2. 数回は受賞している 3. 10回以上受賞している	
全員参加		複数の活動内容のうち、特に大切な活動としてメンバー全員参加で実施している項目	1. メンバー全員参加の活動を実施している 2. メンバー全員参加の活動を実施していない 3. 当初からの活動は全員参加で実施している 4. 全員参加で実施している活動は当初のものではない	
時代の変化/その他		満足時からの時代の変化について 会員の継続的活動のモチベーションを維持・増進するための工夫点、必要なサポートについて	自由記入	

また、対象者については、過年度の日本水大賞受賞者及び日本ストックホルム青少年水大賞受賞者とした。日本水大賞は日本水大賞委員会が平成10年から河川環境の保護、水資源の保全、河川の防災、水の文化の活動を通じて功績のある活動を表彰しているものである。日本ストックホルム青少年水大賞は、毎年スウェーデンで開催される世界水週間にて、生活の質の向上及び水環境における生態系の改善に資する、優れたプ

プロジェクト（調査研究）を行った若い研究者に贈られる「ストックホルム青少年水大賞」に推薦される、日本代表に贈られる賞である。

2 - 3 アンケート調査の実施

アンケートは、過年度の日本水大賞受賞者及び日本ストックホルム青少年水大賞受賞者の148団体に平成25年1月に郵送し、65団体からの回答を得た。回答率は約44%であった。

3. アンケートの結果整理

結果について、基本的な集計を行った。代表的なものについて以下に記す。

図 - 1 に、発足時と比較した最近5年間の活動状況についての集計結果を示す。「発展している」が61%、「変化無し」が21%、「縮小している」が17%であった。

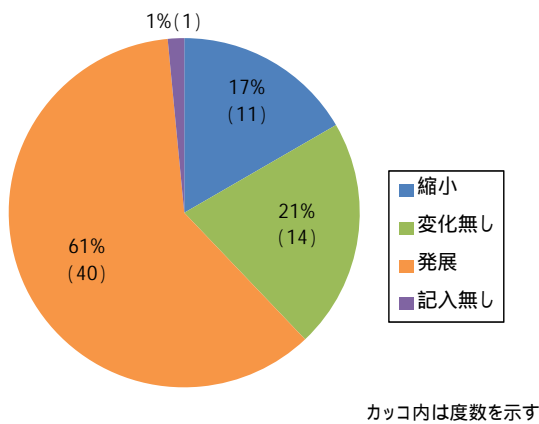


図 - 1 発足時と比較した最近5年間の活動状況

また、自らの知名度をどのように感じているかについての集計結果を図 - 2 に示す。

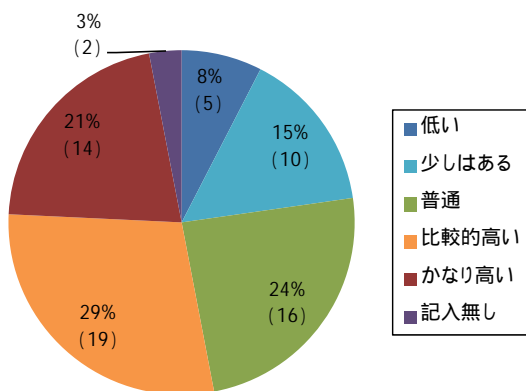


図 - 2 知名度に関する自己認識

低いと感じている団体は全体の8%であり、89%の団体が自ら知名度が「少しはある」～「かなり高い」と感じていることがわかった。

両方の結果から、かなり高い割合の団体が、「最近も発足時と変わらずないしは発展した活動を実施しており、知名度がある」と考えていることがわかった。これらは、表彰団体を調査対象にしていることが影響していると考えられる。

さらに、知名度と活動状況の関係について整理した。クロス集計表及び関係図について、それぞれ表 - 2、図 - 3 に示す。

表 - 2 知名度と活動状況のクロス集計表

知名度	最近5年程度の活動状況			
	縮小	変化無し	発展	記入無し
低い	3	1	1	1
少しはある	3	2	5	0
普通	1	6	9	0
比較的高い	2	3	14	0
かなり高い	1	2	11	0
記入無し	0	0	0	1

数値は度数を示す

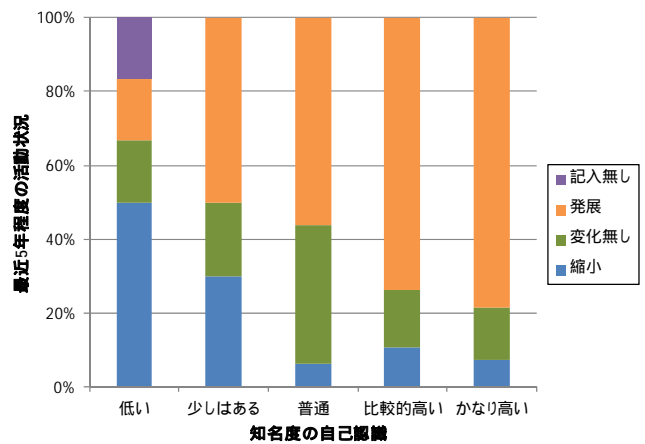


図 - 3 知名度と活動状況の関係 (知名度「記入無し」は省略した)

知名度が高いと感じる団体ほど活動が発展している割合が高くなり、低いと感じる団体ほど活動が縮小している割合が高くなることが明瞭に示された。当初仮定した通り、知名度が活動状況に影響している可能性が高いと考えられる。

今回は基礎的な事項を中心に整理した。今後も継続して、項目間の関係や自由回答の詳細分析を行い、河川水辺におけるボランティアな活動を継続的に実施していくにあたって必要となるモチベーションの維持に関する知見を深めていく必要がある。